

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
湘中央生命科学技術専門学校		昭和61年10月22日		今井 寛		〒 252-1121 (住所) 神奈川県綾瀬市小園1424番4号 (電話) 0467-77-1234				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人湘中央学園		昭和56年4月20日		稲福全人		〒 252-1121 (住所) 神奈川県綾瀬市小園1424番4号 (電話) 0467-77-1234				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程		愛玩動物看護学科		-	-	-			
学科の目的	学校教育法及び私立学校法の規定に基づき生命科学に関する専門の知識と技術を修得させ、職業に必要な実践的能力の育成と教養の向上を図ることを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	■取得可能な資格 愛玩動物看護師国家資格、愛玩動物飼養管理士2級									
	2023年度新規開設学科ため資格受験者無し									
	■中途退学率 2023年度新規開設学科のため発生していません。									
	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談の定期的実施、学納金についての相談窓口開設、補講授業実施、カウンセリング等									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,040 単位時間	2,280 単位時間	100 単位時間	990 単位時間	0 単位時間	0 単位時間		
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
90人	33人		0人		0%					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 人									
	■就職希望者数(D) : 人									
	■就職者数(E) : 人									
	■地元就職者数(F) : 人									
	■就職率(E/D) %									
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) %									
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) %									
	■進学者数 : 人									
	■その他									
	就職指導内容 入試キャリア支援室を常設して、就職セミナー、就職ガイダンス、進路相談及び進路指導等を実施している。 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 動物病院										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
当該学科のホームページURL	https://sho-oh.ac.jp/									
企業等と連携した実習等の実施状況	(単位時間による算定)									
	総授業時数					3,370 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					180 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間				
	うち必修授業時数					3,040 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					180 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					180 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					2人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0人				
	計					3人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1人				

2023年度新設学科のため2026年度に記載

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・建学の精神である「生命を尊重する、人間性豊かな専門職業人の育成」を目指す。
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点から関連分野と連携してカリキュラムや教育方法の工夫を実施する。
- ・実践的な専門職業教育を行う教育機関として、関係業界等において必要な人材育成を実現すること。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ・学校は、教育課程編成に関する事項を諮問するために教育課程編成委員会を設置する。
- ・学校は、委員会の答申を受け、理事会に教育課程変更の審議を要請するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2023年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
田爪正気	株式会社ベネクス 顧問	2023年6月1日～2024年5月31日	②
成田淳美	シーサイドアニマルクリニック	2023年6月1日～2024年5月31日	③
花輪俊宏	湘中央生命科学技術専門学校 応用生物科学科	2023年6月1日～2024年5月31日	—
竹尾文彦	湘中央生命科学技術専門学校 応用生物科学科	2023年6月1日～2024年5月31日	—
浅原千恵	湘中央生命科学技術専門学校 応用生物科学科	2023年6月1日～2024年5月31日	—
三輪健彦	湘中央学園 学務部	2023年6月1日～2024年5月31日	—

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 9月、2月

(開催日時(実績))

第1回 2023年9月下旬(予定)

第2回 2024年2月中旬(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(2023年度新設学科のため、まだ実施していません)

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

< 動物看護総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ >

・学内で学んだ基礎知識と技術が臨床の場においてどのように実践されているかを学び、将来につながる実践的な動物看護師としての豊かな資質を養う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

< 動物看護総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ >

・長期休暇を利用し、動物病院での実際の病院業務内容について体験理解するために、それぞれ合計60時間の病院実習を履修する。

・専任教員による事前病院訪問で病院指導担当者に直接実習内容と指導方法、実習評価について打合せを実施する。

・病院実習の実習施設による技能・態度を中心とした資質評価『病院実習評価表』と学生が毎日記録する実習記録(実施内容)に基づき総合的に評価を行う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で行われている診療の流れを知り、消毒や清掃を実践することにより、衛生管理の重要性を理解する	DVMsどうぶつ医療センター横浜、SHALAN動物病院、かしわだい動物病院、こもれびペットクリニック、たかまる動物病院、とりうみ動物病院、布川犬猫病院、みかん動物病院、水上犬猫鳥の病院、アニマルクリニックイスト、ナチュラル動物病院、マーブル動物医療センター、井上動物病院、関内どうぶつクリニック、栗田動物病院、蒔田しいな動物病院、若草どうぶつ病院、桃浜どうぶつ病院、舞岡どうぶつ病院、福沢動物病院、平澤動物病院、緑ヶ丘どうぶつ病院、林動物病院、中島動物病院、田中動物病院、さがみ中央動物医療センター、山口獣医科病院、シーサイドアニマルクリニック、澤動物病院神奈川動物医療センター、二俣川どうぶつ病院、株式会社JPR、あすなる動物病院、平塚動物総合医療センター、さとう動物病院、みどり動物病院、溝呂木動物病院、アニマルメディカルセンター、愛甲石田動物病院、動物再生医療センター病院
動物看護総合実習Ⅱ	獣医師からの指示がある程度理解でき、診療が円滑に行われるための工夫を考える	
動物看護総合実習Ⅲ	動物看護師の業務全般を理解し、医療従事者としての自覚を養う	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

・学校は、職能団体、企業等が実施する学会および研修等へ教員を計画的に参加させることにより、職業に関連した実務に関する知識、技術および技能の向上、または授業および学生に対する指導力等の修得、向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

(2023年度新設学科のため、研修実績はなし)

② 指導力の修得・向上のための研修等

(2023年度新設学科のため、研修実績はなし)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本動物看護職協会の総会	連携企業等:	日本動物看護職協会
期間:	2023年6月	対象:	学科長、教員
内容	日本動物看護職協会の総会に参加		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	日本臨床獣医学フォーラム年次大会	連携企業等:	日本臨床獣医師会
期間:	2023年9月23日～9月24日	対象:	教員
内容	獣医療に関する多数の発表があり、動物看護に関する発表も多数ある。動物看護教員の研修として、勉強となる会である。		

研修名:	日本実験動物技術者協会関東支部総会・懇話会	連携企業等:	日本実験動物協会
期間:	2024年2月	対象:	学科長
内容	実験動物技術に関わる最新の動向を知ることができ、学生教育に役立つ内容である。		

研修名:	実験動物技術指導員研修会	連携企業等:	日本実験動物協会
期間:	2024年3月	対象:	学科長
内容	実験動物技術指導員の研修会であり、指導員としての知識・技能を学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

・実践的な職業教育を目的とした教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
 ・生徒、保護者、高等学校等、関係団体に適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者に教育活動その他学校運営について理解を得る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・教育目的・育成人材像は明確に定められているか ②学校における職業教育の特色は明確になっているか ③教育理念・教育目的・育成人材像が生徒・保護者等に周知されているか
(2)学校運営	①教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画(人事・財務・教務)が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか ④人事・給与に関する制度が整備してあり有効に機能しているか ⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑦情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③教育理念・到達目標に沿った教育課程は体系的に編成しているか ④講義及び実習に関するシラバスは作成されているか ⑤学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか ⑥職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑦キャリア教育を実施しているか ⑧成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確化し、適切に運用しているか ⑨資格取得の指導體制が整備され、適切に運用されているのか ⑩人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑪関連分野における優れた教員を確保するための活動が行われているか ⑫先端的な知識・技能等を修得するための研修や教職員の指導力育成など資質向上の取組が行われているか ⑬教員の組織体制が整備され、適切に運用されているのか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③入学者に対する卒業率はどうか ④実習委託をする場合、その目的、要望事項等及びそれに対する評価項目の依頼を明確にしているか ⑤インターンシップについて、依頼先の担当者と十分なコミュニケーションをとり、依頼した評価法どおりに評価されているか

(5) 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備され、学生や保護者に周知されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者との連携は適切か ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②実習室の機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ③学校施設・機器備品等が定期的に管理・点検されているか ④図書室及びコンピュータが利用できる環境を設置しているか ⑤防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	①高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか ②学生募集活動は、適正に行われているか ③学生納付金は妥当なものとなっているか、入学辞退者に適正な取扱いを行っているか ④生徒募集の効果と実績を検証しているか
(8) 財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③予算及び計画に基づき適正な執行管理を行っているか ④財務について会計監査が適切に行われているか ⑤財務情報の公開の体制準備はできているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか ⑤学校関係者評価を実施して評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(2023年度新設学科のため、学校関係者評価会議はまだ実施しておりません)

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2023年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
成田和順	関東労災病院 臨床検査科	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
田爪正気	株式会社ベネクス 顧問	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
山崎 翼	平塚市消防本部	2023年6月1日～2024年5月31日	企業
平野 貢	生命同窓会副会長 卒業生代表	2023年6月1日～2024年5月31日	卒業生
秋元幸子	父母の会 会長	2023年6月1日～2024年5月31日	保護者
浅野美佳子	父母の会 副会長	2023年6月1日～2024年5月31日	保護者

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://sho-oh.ac.jp/>

公表時期:

毎年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・学校に関する教育活動の状況や内容及び資格取得など、学校全体の状況が把握できるような情報提供をすることにより、関連業界等との連携・協力を図り、教育活動の改善や社会的信頼を得る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育計画、特色 ・校長名、所在地、連絡先、理事名簿等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員 ・カリキュラム、時間割、使用する教材など授業方法及び内容 ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・実習・実技等の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い ・活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	・貸借対照表、収支計算書、財産目録、事業報告書、監査報告書
(9)学校評価	・自己評価、学校関係者評価の結果

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: <https://sho-oh.ac.jp/>

公表時期: 毎年6月1日

授業科目等の概要

(文化・教養課程 愛玩動物看護学科) 2023年度				※2023年度新設学科のため、1年次科目のみ実施											
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		心理学	講義、心理テスト、実習などを通して、こころの働きについて学びながら、自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションスキルを身につける。	1 ①	30		○			○			○	
2	○		基礎数学	初歩的な計算方法の復習とライフサイエンスにおける数値の取り扱いや論理的関係について親しみ、考え方を深めていく。	1 ①	30		○			○			○	
3	○		基礎化学	元素記号や元素名を覚え、化合物名、化学式を理解し、濃度計算についても学ぶ	1 ①	30		○			○			○	
4	○		検査機器総論	基礎実習で必要な関連分析機器、検査機器の取り扱いについて理解を深める。	1 ①	30		○			○			○	
5	○		生化学	生命の基本単位として細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、糖質、タンパク質、脂質、核酸、酵素、ビタミン、ホルモン、無機質の構造、性質に関する基本的知識を修得する。	1 ③	30		○			○			○	
6	○		微生物学実習	微生物学で学んだ知識を基に微生物の実験に関する基礎的手技（無菌操作、染色手技、顕微鏡操作など）および感染防止対策などの基本的知識・技術を徹底的に習得し、実践出来る能力を養う。	1 ③	45					○	○			○
7	○		英語A	専門的な知識や技能を伝えるための実践的な英語力を育成する。また、英語による表現力を養うため、TOEIC演習を行うとともに国際教養の涵養に努める。	1 ①	30		○			○				○
8	○		英語B	医療英語を通して、「読む、書く、聞く、話す」の英語4つの運用能力を高め、ommunication能力を養う。	1 ④	30		○			○				○
9	○		就職講座	自己理解・他者理解を深め、社会人として求められるコミュニケーションスキルとストレスマネジメントスキルを身につける。	1 ②	30		○			○				○
10	○		生命倫理・動物福祉	生命倫理学上の明確な正解のない諸問題について、学問的に探求することを通じて、基本的知識や多様な理論を理解し、合理的な考察力と冷静な判断力、論理的思考力を養う。また優れたコミュニケーション能力（発表能力および文章表現力）も併せて修得する。	1 ④	30		○			○				○
11	○		動物形態機能学 I	生物の生命維持の仕組みを学ぶ上での基礎を学ぶ。	1 ①	30		○			○			○	

35	○		動物外科看護学Ⅱ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ。	2	30	○			○			○				
36	○		動物臨床看護学総論	動物看護師の業務内容、看護過程、看護記録の方法を学び習得する。実例を用いてターミナルケア・グリーフケアを学ぶ。	1 ④	30	○			○			○				
37	○		動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態生理を理解する。	2	30	○			○			○				
38	○		動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解する。	2	30	○			○			○				
39	○		動物臨床看護学各論Ⅲ	様々な疾患の病態生理を理解する。	2	30	○			○			○				
40	○		動物臨床看護学各論Ⅳ	様々な疾患の病態生理を理解する。	2	30	○			○			○				
41	○		動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、学ぶ。	2	30	○			○			○				
42	○		動物医療コミュニケーション	動物病院でのコミュニケーションについて学ぶ。	2	30	○			○			○				
43	○		動物健康管理	動物の健康管理について学ぶ。動物達の健康チェックやお手入れ等をメインに異常に気付くことが出来るようになる。	1 ③	30	○			○			○				
44	○		動物入院管理	入院動物の日常管理について理解し説明できる。状態を確認し、変化にいち早く気づき獣医師や飼い主様に報告出来る力を身に付ける。	1 ④	30	○			○			○				
45	○		愛玩動物学Ⅰ	伴侶動物（特に犬・猫）を理解することで、接触態度をどのように変化させたらよいかを考え、動物看護に応用させる。	1 ①	30	○			○			○				
46	○		愛玩動物学Ⅱ	愛玩鳥とエキゾチック動物の適切な飼養管理方法について学ぶ。	2	30	○			○			○				
47	○		人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割や、その背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1 ②	30	○			○			○				
48	○		適正飼養指導論Ⅰ	適正飼養推進活動、災害時の危機管理、動物愛護管理行政について学ぶ。	2	30	○			○			○				
49	○		適正飼養指導論Ⅱ	適正飼養推進活動、災害時の危機管理、動物愛護管理行政について学ぶ。	2	30	○			○			○				
50	○		動物生活環境学	動物の生活環境について学ぶ。	2	30	○			○			○				
51	○		ペット関連産業論	ペット関連産業、動物取扱業、動物取扱責任者について学ぶ。	2	30	○			○			○				
52	○		愛玩動物飼養管理	愛玩動物飼養管理士資格取得に向け、愛玩動物についての理解、社会活動、法令についての理解を深める。	1 ③	30	○			○			○				
53	○		動物形態機能学実習	実験動物の基本的な取扱を習得するとともに、保定・投与等の手技を習得し、観察力を養い、外科手術の流れを理解する。	1 ③	45				○			○				

54	○		動物内科看護学実習Ⅰ	動物臨床の現場に必要な検査の基礎知識と基本的技術を習得する。	1 ③	45					○	○	○			
55	○		動物内科看護学実習Ⅱ	動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○	○			
56	○		動物内科看護学実習Ⅲ	動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○	○			
57	○		動物外科看護学実習Ⅰ	動物外科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○		○		
58	○		動物外科看護学実習Ⅱ	動物外科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○	○			
59	○		動物臨床看護学実習Ⅰ	動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○	○			
60	○		動物臨床看護学実習Ⅱ	動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○	○			
61	○		動物臨床検査学実習Ⅰ	臨床検査学の実習として、寄生虫卵あるいは寄生虫体の検出を目的とした糞便検査や血液検査法の基礎知識と実践手段を学ぶ。動物病院にて寄生虫検査の即戦力として信頼される知識・技術を体で覚え込めるよう繰り返し実習する。	1 ③	45					○	○		○		
62	○		動物臨床検査学実習Ⅱ	動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○		○		
63	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	動物の適正飼養管理に必要な考え方を養う。動物に対する接触態度から、動物の飼養に至るまで、コンパニオンアニマルの飼養管理全般の基礎知識を身につける。	1 ①	45					○	○		○		
64	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	愛護・適正飼養に関する科目で学んだ知識の実践力を習得する。	2	45					○	○		○		
65	○		動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で行われている診療の流れを知る。動物病院での消毒や清掃を実践することにより、衛生管理の重要性を理解する。	1 ④	60					○		○		○	○
66	○		動物看護総合実習Ⅱ	動物飼育管理の基礎を身につける。	3	60					○		○		○	○
67	○		動物看護総合実習Ⅲ	動物飼育管理の基礎を身につける。	3	60					○		○		○	○
68	○		グルーミング実習Ⅰ	犬体の美容法を学ぶことで、日常の健康管理に役立てる。動物病院において必要なグルーミング技術や、処置前後の衛生管理技術を身につける。	1 ④	45					○	○			○	
69	○		動物看護総合演習Ⅰ	愛玩動物看護師国家試験対策講座。	3	50					○		○		○	
70	○		動物看護総合演習Ⅱ	愛玩動物看護師国家試験対策講座。	3	50					○		○		○	
71	○		基礎動物学特論Ⅰ	基礎動物学の知識の実践力を習得する。	3	75				○			○		○	

72	○		基礎動物学特論Ⅱ	基礎動物学の知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
73	○		基礎動物看護学特論Ⅰ	基礎動物看護学の知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
74	○		基礎動物看護学特論Ⅱ	基礎動物看護学の知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
75	○		臨床動物看護学特論Ⅰ	臨床動物看護学の知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
76	○		臨床動物看護学特論Ⅱ	臨床動物看護学の知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
77	○		愛護・適正飼養学特論Ⅰ	愛護・適正飼養に関する科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
78	○		愛護・適正飼養学特論Ⅱ	愛護・適正飼養に関する科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3	75	○			○	○	○	
79		○	応用実験動物学Ⅰ	実験動物技術者資格認定試験対応講座。	2	30	○			○	○	○	
80		○	応用実験動物学Ⅱ	実験動物技術者資格認定試験対応講座。	2	30	○			○	○	○	
81		○	応用実験動物学Ⅰ実習	実験動物技術者資格認定試験対応講座。	2	45				○	○	○	○
82		○	応用実験動物学Ⅱ実習	実験動物技術者資格認定試験対応講座。	2	45				○	○	○	○
83		○	放射線概論	放射線取扱主任者試験対策講座。	2	30	○			○		○	
84		○	グルーミング実習Ⅱ	グルーミング技術の基礎を習得する。	3	45				○	○		○
85		○	ドッグトレーニング実習	ドッグトレーニング技術の基礎を習得する。	3	45				○	○		○
86		○	毒物劇物取扱法	毒物劇物取扱者試験対策講座。	3	30	○			○		○	
87		○	TOIEC対策講座	TOIEC受験のための対策講座	3	30	○			○			○
合計					87	科目	3370 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：必修及び選択必修の全授業科目を履修し修得すること		1学年の学期区分	4期
履修方法：必修及び選択必修の全授業科目を履修すること		1学期の授業期間	7週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。